

名であるが、報告によればベンゾジアゼピン系の睡眠薬等で縮瞳する中毒症例が多数あり、また、原因不明の意識喪失では服毒が最も多いという報告もある。

原因不明の外傷のない意識喪失では、内因的な疾病を考えてしまうが、本人からの状況聴取が困難なことから、服毒を念頭に入れて情報収集に十分心がけて救急活動を行なわなければならない。

8) 市販のキズ治療薬で発生したナファゾリン中毒の1例

阿部 崇・広瀬 保夫 (新潟市民病院)
本多 忠幸・吉川 博子 (救命救急センター)
本多 拓

市販のキズ治療薬の誤飲により、ナファゾリン中毒をきたした症例を報告する。症例は89歳、男性。自宅でカットバン液®を誤飲し、昏睡状態で発見され救急車で搬送された。高血圧、徐脈、失調性徐呼吸、縮瞳、を認めた。ドキサプラム持続静注により徐呼吸は改善、第8病日に退院した。原因となったカットバン液®はイミダゾリン系の α 刺激薬塩酸ナファゾリンを含有していた。ナファゾリンは、 α_2 受容体刺激による交感神経系のネガティブフィードバックにより、呼吸抑制、徐脈などの副交感神経症状を呈する。また、 α_1 受容体を刺激し、高血圧などの交感神経症状も合併する。本中毒はほとんどが子供の誤飲事故として発生し、成人例の報告はまれである。本例では、呼吸抑制に対しドキサプラムの持続静注が有効であった。市販のキズ治療薬は家庭で常備されていることが多く、その誤飲によって重篤な症状を呈する場合があるので、注意が必要である。

9) 経皮的心肺補助 (PCPS) にて救命した重症肺挫傷の一例

三井田 博・広瀬 保夫 (新潟市民病院)
田中 敏春・本多 拓 (救命救急センター)
金沢 宏・中沢 聡 (同)
羽賀 学・山崎 彦彦 (心臓血管外科)

経皮的心肺補助 (Percutaneous Cardiopulmonary Support; PCPS) の外傷例での使用は、体外循環に伴う抗凝固療法による出血の危険が高く、臨床報告は極めて少ない。われわれは、重症肺挫傷に対し PCPS を行い救命したので報告する。

症例は17歳、男性。バイク事故にて受傷し当院に搬送。来院時、意識清明、血圧84/30 mmHg、脈拍112/分、

呼吸苦しさを訴え、頻回の咯血を認めた。胸部 CT にて、広範な両側肺挫傷、左側血気胸を認めた。ただちに気管内挿管、左側胸腔ドレナージ施行した。大量輸血、カテコラミンの投与を行うも血行動態は急速に悪化した。また呼吸状態も急速に悪化し、100%酸素による人工呼吸下で SaO₂ 50%以下となり、換気不能の状態となった。通常の呼吸管理では救命不可能と判断し、PCPS を開始した。抗凝固療法は nafamostat mesilate を主体に行った。開始後96時間で PCPS を離脱。経過中、外傷性心室中隔穿孔を心エコーにて発見し修復術を施行。入院第59病日に独歩退院した。

10) 経食道心エコー検査 (TEE) と経頭蓋超音波検査 (TCD) における High Intensity Transient Signals (HITS) による心原性脳塞栓症再発のリスク判定について

榛沢 和彦・大関 一
諸 久永・林 純一 (新潟大学第2外科)
中川 忠・中沢 照夫 (北日本脳神経外科病
院脳神経外科)
佐藤 光弥 (国立療養所犀潟病院
神経内科)
中島 孝・福原 信義 (金沢大学神経内科)
古井 英介 (国立循環器病センター
内科脳血管部門)
成富 博章

経頭蓋超音波による脳血流音とは異なる音響強度が強く短いシグナルいわゆる High Intensity Transient Signals (HITS) は脳血管内の微小栓子を反映していると報告されている。我々は動物実験を用いて様々な栓子を大動脈に注入することで HITS が検出できることを報告している。そこで心原性や大動脈原性の脳塞栓症患者において HITS が検出できるか TEE と TCD を用いて検討しさらに HITS 検出と心原性脳塞栓症再発との関連について検討した。HITS 検出は TC 2020 (Nicolet/EME), 2.0 MHz pulsed Doppler probe を用いた。症例1: TEE で大動脈弁に異常構造物を認め、ヘパリン投与中でも HITS が多数検出された例では検査後に脳塞栓症を再発した。そこでオザグレルの投与を行ったところ HITS が消失したので抗血小板剤とワーファリンの併用を行い現在まで再発していない。症例2: TEE で僧帽弁に紐上構造物 (strands) を認め HITS が多数検出された。抗生剤で strands は軽快しなかったのでオザグレルを投与したところ HITS が減少した。そこで抗血小板剤投与を行い strands は不変であるが脳塞栓症を再発していない。症例3: TEE で